

坂下中学校区における学校統合に向けた 第2回意見交換会 次第

日 時 令和7年11月22日(土)
午後2時から午後4時まで
場 所 坂下小学校 体育館

- 1 開会
- 2 坂下中学校区における学校統合に向けた検討について
- 3 意見交換
- 4 その他
- 5 閉会



市ホームページ

これまでに実施した、学校の適正規模等に関するアンケート結果及び意見交換会の会議録を掲載しています。

I 小中学校の適正規模等の取組について

日本の人口は平成 20 年をピークに減少局面に入り、合計特殊出生率は低い水準で推移しています。全国的に出生数が減少する中、本市においても同様に、子どもたちの数の減少が進んでいます。

本市の小学生の人数は、昭和 56 年度の 30,636 人をピークに、令和 13 年度には約 57% 減少の 13,312 人に、中学生の人数については、昭和 61 年度の 15,330 人をピークに、令和 19 年度には約 59% 減少の 6,221 人になると推計しています。

子どもたちの数の減少により、今後標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えています。

将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現していくために、本市では、学校の適正規模や適正配置について検討を進めています。

1 学校規模の区分

過小規模	全学年でクラス替えができない規模
小規模	クラス替えができない学年がある規模
やや小規模	(中学校のみの区分) 小規模だが、全学年でクラス替えができる規模

(1) 小学校における学校規模の区分

学級数	～ 6	7～11	12～24	25～30	31～
区 分	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模

(2) 中学校における学校規模の区分

学級数	～ 3	4～5	6～11	12～24	25～30	31～
区 分	過小規模	小規模	やや 小規模	適正規模	大規模	過大規模

2 学級数の基準

学級数については、現行の 1 学級あたりの児童生徒数の基準で推計しています。

学 年	人 数
小学 1 年生～中学 1 年生	35 人
中学 2 年生及び中学 3 年生	40 人

※複式学級

複式学級とは、児童数が一定の基準を下回る学校において、複数学年の児童を同じ学級として編成する制度のことです。

○複式となる愛知県の基準

1・2年生	2学年の合計が7人以下
3年生以上	各2学年（3・4年生又は5・6年生）の合計が14人以下

国の基準では、1・2年生は8人以下、3年生以上は16人以下を複式と定義しています。

3 学校規模によるメリット・デメリット

「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」P18、19、22からの抜粋

(1) 規模が小さい学校のメリット

- ① 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- ③ 様々な活動において、一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる。
- ④ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。
- ⑤ 教材や教具などを一人ひとり行き渡らせやすい。
- ⑥ 異年齢の学習活動を組みやすい。体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
- ⑦ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に活かした教育活動が展開しやすい。
- ⑧ 児童生徒の家庭の状況や地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。

(2) 規模が小さい学校のデメリット

ア 学級数が少ないことによる課題

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない。
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- ③ 教員の加配なしには、習熟度別指導など、クラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される。
- ⑤ 運動会や文化祭、遠足、修学旅行などの集団活動や行事の教育効果が下がる。
- ⑥ 上級生と下級生間のコミュニケーションが少なくなる。学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる。
- ⑦ 体育科の球技や音楽科の合唱や合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ⑧ 班活動やグループ分けに制約が生じる。
- ⑨ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。
- ⑩ 教科などが得意な子どもの考えに、クラス全体が引っ張られがちとなる。
- ⑪ 生徒指導上の課題がある子どもの問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける。
- ⑫ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。
- ⑬ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。

イ 教職員数が少なくなることによる課題

- ① 経験年数や専門性、男女比などのバランスの取れた教職員配置やそれらを活かした指導の充実が困難となる。
- ② 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある。
- ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる。多様な価値観に触れさせることが困難となる。
- ④ ティーム・ティーチングやグループ別指導、習熟度別指導、専科指導などの多様な教育方法をとることが困難となる。
- ⑤ 教職員一人あたりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない。
- ⑥ 学年によって学級数や学級あたりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生じる。
- ⑦ 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会などに参加することが困難となる。
- ⑧ 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい(学年会や教科会などが成立しない)。
- ⑨ 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある。
- ⑩ 免許外指導の教科が生まれる可能性がある。
- ⑪ クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる。

ウ 学校運営上の課題が児童生徒に与える影響

- ① 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重したりする経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。
- ② 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。
- ③ 協働的な学びの実現が困難となる。
- ④ 教員それぞれの専門性を活かした教育を受けられない可能性がある。
- ⑤ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。
- ⑥ 教員への依存心が強まる可能性がある。
- ⑦ 進学などの際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。
- ⑧ 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。
- ⑨ 多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい。

(3) クラス替えが可能になることによるメリット

- ① 児童生徒同士の人間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制ができる。
- ② 児童生徒を多様な意見に触れさせることができる。
- ③ 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる。
- ④ クラス替えを契機として、児童生徒が意欲を新たにすることができる。
- ⑤ 学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができる。
- ⑥ 学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導などの多様な指導形態をとることができる。
- ⑦ 指導上課題のある児童生徒を各学級に分けることにより、きめ細かな指導が可能となる。

4 本市の考え方

全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、1学年に2学級以上あることが必要であると考えます。

過小規模	過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討します。
小規模	
やや小規模 (中学校のみ)	その推移を見守ることとし、必要に応じて通学区域の変更などを検討します。

5 最優先に検討する中学校区

中学校区で見た場合に、将来、全ての小学校が「過小規模校」又は「小規模校」になると推定される中学校区（坂下・藤山台・高森台・石尾台・岩成台）にある学校について、最優先に検討することとし、取組を進めています。

- (1) 坂下中学校区
坂下中学校、坂下小学校、西尾小学校、神屋小学校
- (2) 藤山台中学校区
藤山台中学校、藤山台小学校
- (3) 高森台中学校区
高森台中学校、高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校
- (4) 石尾台中学校区
石尾台中学校、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校
- (5) 岩成台中学校区
岩成台中学校、岩成台小学校、岩成台西小学校

6 これまでの取組

- (1) 令和7年2月
「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」の策定
- (2) 令和7年4月～5月
小中学校のPTA役員への説明、意見交換
- (3) 令和7年5月～6月
保護者、子どもアンケートの実施
- (4) 令和7年6月～7月
地域アンケートの実施
- (5) 令和7年9月～10月
第1回意見交換会の開催

II 児童生徒数推計について

令和22年度では、坂下小学校及び神屋小学校は全学年で学級数が1学級の「過小規模」であり、西尾小学校においては全学年で複式学級の編成が推定されます。

(1) 坂下中学校 ※R11に一時的に「適正規模」になり、R12から「やや小規模」で推移

学年	R 7 (やや小)		R 8 (やや小)		R 9 (やや小)		R 10 (やや小)	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
1年	127	4	110	4	124	4	132	4
2年	107	3	128	4	110	3	125	4
3年	114	3	107	3	129	4	110	3
合計	348	10	345	11	363	11	367	11

(2) 坂下小学校 ※R12から「小規模」になり、R22では「過小規模」であると推定

学年	R 7 (適正)		R 8 (適正)		R 9 (適正)		R 10 (適正)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	68	2	53	2	47	2	43	2
2年	60	2	68	2	53	2	47	2
3年	69	2	60	2	68	2	53	2
4年	76	3	69	2	60	2	68	2
5年	83	3	76	3	69	2	60	2
6年	66	2	83	3	76	3	69	2
合計	422	14	409	14	373	13	340	12

(3) 西尾小学校 ※R 9から一部の学年が、R22では全ての学年が複式学級であると推定

学年	R 7 (過小)		R 8 (過小)		R 9 (過小)		R 10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	3	1	7	1	9	1	7	1
2年	9	1	3	1	7	1	9	1
3年	9	1	9	1	3	1	7	1
4年	13	1	9	1	9	1	3	1
5年	15	1	13	1	9	1	9	1
6年	8	1	15	1	13	1	9	1
合計	57	6	56	6	50	5	44	5

(4) 神屋小学校 ※R10から「過小規模」になると推定

学年	R 7 (小)		R 8 (小)		R 9 (小)		R 10 (過小)	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	19	1	27	1	29	1	31	1
2年	25	1	19	1	27	1	29	1
3年	23	1	25	1	19	1	27	1
4年	36	2	23	1	25	1	19	1
5年	23	1	36	2	23	1	25	1
6年	29	1	23	1	36	2	23	1
合計	155	7	153	7	159	7	154	6

※ R19までは、R7の0歳から5歳までの年齢別人口に基づき推計。

R22は、「春日井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンから推計。

R11 (適正)		R12 (やや小)		R13 (やや小)	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
111	4	101	3	94	3
133	4	111	3	101	3
126	4	134	4	111	3
370	12	346	10	306	9

R19 (やや小)	
生徒数	学級数
52	2
55	2
77	2
184	6

R22 (やや小)	
生徒数	学級数
48	2
41	2
43	2
132	6

R11 (適正)		R12 (小)		R13 (小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
53	2	31	1	32	1
43	2	53	2	31	1
47	2	43	2	53	2
53	2	47	2	43	2
68	2	53	2	47	2
60	2	68	2	53	2
324	12	295	11	259	10

R22 (過小)	
児童数	学級数
32	1
28	1
32	1
35	1
32	1
25	1
184	6

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
6	1	5	1	1	1
7	1	6	1	5	
9	1	7	1	6	1
7	1	9	1	7	
3	1	7	1	9	1
9		3		7	1
41	5	37	5	35	4

R22 (過小)	
児童数	学級数
2	1
5	
5	1
6	
6	1
4	
28	3

R11 (過小)		R12 (過小)		R13 (過小)	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
18	1	19	1	19	1
31	1	18	1	19	1
29	1	31	1	18	1
27	1	29	1	31	1
19	1	27	1	29	1
25	1	19	1	27	1
149	6	143	6	143	6

R22 (過小)	
児童数	学級数
12	1
12	1
16	1
13	1
18	1
15	1
86	6

Ⅲ アンケート結果について

保護者アンケート…【保護者】 地域アンケート…【地域】
 児童アンケート …【小学生】 生徒アンケート…【中学生】

- ・ 小学校回答者数…1,014 人（保護者 521 人、児童（3～6 年生）391 人、地域の方 102 人）
- ・ 中学校回答者数… 458 人（保護者 158 人、生徒 300 人）

1 学校の適正規模等に取り組むことについて

1 学年に 2 学級以上となるように学校の適正な規模や配置に取り組むことについて、「賛成」の割合は、小学校全体の保護者で約 6 割、地域の方で約 8 割、中学校の保護者で約 7 割となっています。

「ぜひ進めるべき」 又は「進める方がよい」と回答した方 … 賛成
 「進めない方がよい」 又は「進めるべきではない」と回答した方 … 反対

Q 小中学校ともに 1 学年に 2 学級以上必要という考えに基づき、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
全体	【保護者】	61.8%	28.8%	9.4%
	【地域】	78.4%	11.8%	9.8%
坂下小	【保護者】	63.6%	30.5%	5.9%
	【地域】	80.4%	10.9%	8.7%
西尾小	【保護者】	42.8%	32.7%	24.5%
	【地域】	50.0%	22.2%	27.8%
神屋小	【保護者】	64.2%	23.8%	12.0%
	【地域】	89.5%	7.9%	2.6%

② 中学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
坂下中	【保護者】	69.6%	26.0%	4.4%

Q 前の質問で賛成と回答した方のうち、ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて

① 小学校全体及び小学校別

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
全体	【保護者】	90.3%	9.4%	0.3%
	【地域】	98.8%	1.2%	0%
坂下小	【保護者】	87.7%	12.3%	0%
	【地域】	97.3%	2.7%	0%
西尾小	【保護者】	100%	0%	0%
	【地域】	100%	0%	0%
神屋小	【保護者】	93.8%	5.2%	1.0%
	【地域】	100%	0%	0%

② 中学校

学校名	区分	賛成	どちらでもよい	反対
坂下中	【保護者】	90.9%	8.2%	0.9%

2 複数学級を望む声について

1学年に複数学級が望ましいと考えている方はとても多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えています。

【小学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **96.4%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **60.7%**

【小学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている児童 **82.6%**

【中学生保護者】

- ・複数学級が望ましいと考えている人 **99.3%**
- ・各学年の学級数が多い学校の「よい」と感じる理由で「クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができること」を選択した人 **57.6%**

【中学生】

- ・複数学級が望ましいと考えている生徒 **99.0%**

3 学校生活において重要と思うこと

児童生徒は、クラス替えができて友達がたくさんできることや、体育大会などの行事でクラスに活気があることが大事だと考えています。

地域の方は、多くの子どもたちによる人間関係の広がりや、子どもたちの登下校について重要と考えています。

【小学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「クラスがかわって、新しい友だちがたくさんできること」 **43.7%**
- ・「運動会などが楽しくて、クラスが元気なこと」 **39.4%**

【中学生】

Q 学校生活で大事だと思うこと

- ・「体育大会などの行事が盛り上がり、クラスに活気があること」 **59.3%**
- ・「クラス替えができて、たくさんの友達をつくれること」 **51.0%**

【地域】

Q 地域の子どもたちが学校生活を送るにあたって重要と思うこと

- ・「多くの子どもたちがいて人間関係に広がりがあること」 **59.8%**
- ・「子どもたちの通学の距離や方法」 **58.8%**

4 魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと

保護者は、子どもの人間関係の広がりや、子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育を重要と考えています。

地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。

【小学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 **58.0%**
- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 **54.9%**

【中学生保護者】

Q 子どもたちにとって、魅力ある学校づくりを進めるために重要と思うこと

- ・「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」 **56.3%**
- ・「子どもの人間関係に広がりがあること」 **53.8%**

【地域】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、地域の方にとって重要と思うこと

- ・「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」 **84.3%**
- ・「学校と地域との連携が図られること」 **38.2%**

5 学校の適正規模等の取組において心配なこと

保護者は、登下校に関することを心配と考えています。登下校については、安全性や時間が重要と考えています。

【小学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **51.8%**
- ・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 **22.7%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **62.2%**
- ・「登下校にかかる時間」 **21.5%**

【中学校保護者】

Q 学校の規模や配置を見直す場合、心配なこと

- ・「登下校に関すること」 **55.0%**
- ・「きめ細かな指導が受けられなくなる可能性があること」 **24.7%**

Q 登下校に関して最も重要だと思うこと

- ・「登下校の安全性」 **52.5%**
- ・「登下校にかかる時間」 **24.1%**

IV 意見交換会でのご質問・ご意見について

参加者からは、学校を統合する場合のスケジュールや今後の具体的な検討の進め方、バスの導入についての質問が多くありました。また、具体的な統合案を示してほしいなどの意見もありました。

学校名 (開催日)	坂下中学校 (10月1日)	坂下小学校 (9月16日)
参加者数	11人	18人
質問・意見 ()は意見数	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に関することについて (4) ・スケジュールについて (1) ・通学バスについて (1) ・1学級の人数について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・学校跡地について (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の具体的な検討の進め方について (3) ・アンケートについて (3) ・少人数学級について (2) ・スケジュールについて (1) ・複数クラスを推奨する理由 (1) ・魅力ある学校づくりについて (1) ・他市の事例について (1) ・西尾小学校で適正化に対して賛成の割合が低い理由 (1)

学校名 (開催日)	西尾小学校 (9月19日)	神屋小学校 (9月18日)
参加者数	16人	17人
質問・意見 ()は意見数	<ul style="list-style-type: none"> ・資料内容について (1) ・複式学級について (1) ・地域の過疎化について (1) ・他市の事例について (1) ・スケジュールについて (1) ・先の藤山台地区の統合について (1) ・今後の具体的な検討の進め方について (1) ・通学バスについて (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の具体的な検討の進め方について (5) ・スケジュールについて (1) ・通学について (1) ・統合に関することについて (1) ・学童について (1) ・他市の事例について (1) ・学校跡地について (1)

※意見交換会の会議録は、資料表紙のQRコードからご確認いただけます。

坂下中学校区意見交換会 質疑応答一覧

1 坂下中学校

No.	質 問	回 答
1	統合に賛成で、できれば自分の地区に学校をつくってほしいと考えている方は多いと思う。3つの小学校を統合して、新しい学校はどこにつくるのか。	<p>坂下中学校区の中には中学校を含めると4つの学校がありますが、新しい学校をつくることになった場合は、基本的には既存の学校の土地を活用することになると考えています。坂下中に小中一貫校を設置することもあると考えています。</p> <p>どこの土地を活用するかは、それぞれメリット、デメリットがありますので、情報提供をしっかり行い、皆さまと議論していきたいと考えています。最終的には市が決定する形になりますが、私たちが気付かないメリット、デメリットなど、様々な意見をいただければと考えています。</p>
2	今後のスケジュールを教えてください。	<p>具体的なスケジュールは決まっていません。仮に統合すると決まったとして、既存の学校を使用する場合、リニューアルする場合、新しい学校をつくる場合で期間は変わってきます。また、それぞれ学校の運営の方法には特色があると思いますので、その調整にも時間がかかると想定されます。皆さまと協議しながら進めていきたいと考えています。</p>
3	坂下中も他の学校と統合する可能性があるのか。	<p>坂下中学校区も他の中学校区と接してはいますが、隣接する中学校区とは地形的な隔りがあることから、適正規模等の取組は坂下中学校区の中だけで実施したいと考えています。</p>
4	坂下中は残って、小学校3校が統合するイメージか。	<p>坂下中学校の推計は「やや小規模」で推移すると考えられますので、その推移を見守ることとします。</p>
5	小学校3校を見ると、神屋小と西尾小の児童数が少ないと感じる。統合するのであれば、段階的に神屋小と西尾小を統合してから坂下小を統合するのか、それとも一度に3校を統合で考えているのか。	<p>統合する場合は、3校を一度に実施したいと考えています。</p> <p>以前の藤山台小学校の統合は段階的な統合を行いました。一度に統合してほしかったとの意見があったことや、先に統合した2校と後に統合する学校との調整に苦労したとの話もありました。そのため、一度に実施するのが望ましいと考えています。</p>
6	バスによる通学について、市内でバス通学を実施しているところはあるのか。	<p>市内では、通学にバスを利用している事例はありません。</p> <p>近隣の市町村では、瀬戸市の学校統合した地区で路線バスを利用した通学を実施しており、小牧市では学校の統合を進めている篠岡地区で、スクールバスの導入を検討していると聞いています。</p>
7	1クラスの人数が決まっているので、統合してもクラス数が増えない場合もあるのか。	<p>その場合もあります。現在、1クラスの子どもの数は、小学生と中学1年生は35人学級、中学2年生、3年生は40人学級となっています。現在、国において、1クラスの人数を見直す動きがあるため、その動向を注視しています。また、県では、愛知県議会の代表質問で、中学2年生、3年生の1クラス35人学級について、国より1年前倒しして進めていくと回答しています。</p>

No.	質 問	回 答
8	<p>今後、検討が進んだ後に、協議会で議論していくと聞いた。中学校は統合する予定はないとのことだが、中学校含めた4校の関係者と検討していくのか。</p>	<p>各学校の意見交換会でいただいた意見を踏まえて、次の段階として、坂下中学校区全体で2回目の意見交換会を実施したいと考えています。その後は、坂下中学校を含めた4校の保護者、地域の代表の方や学校関係者などで構成する組織を立ちあげて検討を考えています。</p>
9	<p>小学校の体育館は避難所に指定されているが、統合されるとどうなるのか。学校跡地はどうなるのか。</p> <p>今は保護者が学校に送迎しているケースが多く見られるので、駐車スペースも考えてほしい。</p> <p>また、検討にあたっては、未就学児の親の意見もしっかり聞いてほしい。</p>	<p>子どもたちの教育環境の向上を第一に考えて取り組む必要があると考えており、跡地に関することについては、別で検討を進めていきたいと考えています。</p> <p>送迎スペースの確保については、バスの導入など通学手段を検討していく中で、保護者や学校の先生にも意見をいただきながら検討していきます。</p> <p>また、未就学児の保護者については、アンケート実施の際に保育園や幼稚園に協力いただき、意見を聞いてきました。今後も、園関係者や未就学児の保護者からも多くの意見を聞いていきたいと考えています。</p>

2 坂下小学校

No.	質問	回答
1	学年に1クラスなど、規模の小さい方が手厚く指導してもらうことができ、授業中も静かに授業を受けることができると思う。なぜ春日井市は複数クラスを推奨するのか。	<p>小規模校の方が、教員が一人ひとりの児童生徒の個別の学習状況や家庭状況を把握しやすい環境にあると承知しています。しかしながら、クラス替えができず人間関係が固定化しやすいことや、体育の球技や音楽の合唱など集団で行う授業に制約が生じるなどの課題があります。また、学年に関わる教員が1人だと児童生徒への関わり方が固定されてしまうことや、教員同士が切磋琢磨する環境が生まれにくいこともあります。</p> <p>これらのことから、春日井市は1学年に2学級以上を確保したうえで魅力ある学校づくりを目指していこうと考えています。</p>
2	この先、協議会などを設置して検討する機会はあるのか。我々の意見はどのくらい反映されるのか。	<p>各小中学校の皆様の意見を聞き、一度フィードバックする機会を設けたいと思っています。今後の具体的な検討に関しては、保護者や地域の代表の方、学校の関係者を含んだ協議会のようなものを設置し、検討していきたいと考えています。</p>
3	学年に1クラスの小規模校でもうまくやっている県があると思う。小中学校の適正な規模等に関する他の市の実例はどうなっているのか。	<p>文部科学省が2年に1度実施している「学校規模の適正化及び少子化に対応した学校教育の充実策に関する実態調査」では、74%の市町村が課題を認識しており、そのうちの83%の市町村が対策の検討に着手しています。また、令和4年度には160校、令和5年度に132校が実際に統合して開校しています。岐阜の山間部の学校では学校が分散しているので統合が難しく、そのような学校は小規模校のメリットを生かし、デメリットを最小化するための教育環境の整備を文部科学省は推奨しています。基本的に小学校は1学年2～3クラスが望ましいと文部科学省が定めているため、春日井市もその考え方で検討しています。</p>
4	小学校の1クラスあたり35人という基準から人数を減らすことでクラス替えができるようになるのではないかと。	<p>本市の1学級あたりの人数は、愛知県の基準と同様に、小学校の全学年及び中学1年生は35人、中学校の2、3年生は40人としており、その基準をもって教員数が配置されています。1クラスあたりの子どもの数を減らしてクラス数を増やしても教員数が増えないため、市独自で学級数を定めることは難しいと考えています。</p>
5	今後のスケジュールを教えてください。	<p>現状、具体的な日程は決まっていません。今後、保護者や地域の方など代表者を募り、協議会のようなものを設置した上で坂下地区をどうするかを具体的に検討していく予定です。また学校を新たに作ったり、改修したりするとなると5年近くかかると想定されます。まずは市と皆様との合意形成を図り、スピード感をもって具体的なスケジュールを決定していきたいと考えています。</p>
6	良い学校づくりのためにも具体的な案を提示してほしい。	<p>今後、皆様と話し合いをしていく中で、魅力ある学校づくりをしていくための提案をさせていただきたいと考えています。皆様と話し合いを深め、地域に人が増えていくような、地域づくりに貢献できる新しい学校づくりをしていきたいと考えています。</p>

No.	質 問	回 答
7	1学級あたりの人数は国や県が定めていると言っていたが、人数を減らせるよう県に要望したらよいと思う。市から国や県に要望する機会はないのか。	毎年、予算編成の時期などに合わせ、市長が県の教育委員会へ直接出向き、教員の配置などについて、県に要望する機会があります。
8	アンケートの内容について、「小中学校の適正な規模」など難しい表現が多くみられた。次回アンケートを実施するときはより具体的にわかりやすくしてほしい。	「小中学校の適正な規模や配置」という表現になってしまったのは「統合」だけでなく「通学区域変更」など、他の手法もあるという意味合いを含んでいたからです。現時点で、次のアンケートを実施することは未定ですが、今後、皆様に意見を聞く際には、誰が聞いても分かりやすい表現を用いることを意識したいと思います。
9	未就学児の保護者など、今後就学し、学校規模の適正化の影響を受けると考えられる世代にはアンケートを実施したのか。	坂下地区とニュータウン地区内の公私立保育園、私立幼稚園、認定こども園に協力をさせていただき、未就学児の保護者の皆様にアンケートの案内をさせていただきました。今回のアンケート結果には、未就学児の保護者からの回答結果も含まれています。
10	我々の意見は反映されるのか。この意見交換会の重要性はどれだけあるのか。重要であるなら地域の方をもっと巻き込んで意見を聞いた方がよいと思う。	全ての要望について実施できるとは約束できませんが、行政の視点と実際に地域に暮らしている方の視点は異なるので、皆様から直接意見をいただける場として大変有意義な場だと考えています。皆様からいただく多くの意見を参考に、多角的な議論に努めていきたいと考えています。
11	西尾小学校では適正化に対して賛成の割合が低い。その理由は。	アンケート結果を見ると、現時点で過小規模の学校は、賛成の割合が低い傾向にありました。ここからは我々の推測になりますが、現状の1クラスに満足していて、無理に複数学級にならなくてもよいという方もいるのではないかと考えています。
12	教員が対象のアンケートは実施したのか。	教員に対するアンケートは実施していませんが、先日、坂下小学校で、教員に説明してほしいとの要望があったので、市と教員との話し合いの場を設けました。今後も要望があれば、教員の意見を聞いていきたいと考えています。
13	意見を出し合って、一緒に考える機会を作してほしい。	これからも、皆様と市とで協議する場を作り、何回か開催したいと考えています。競技の中で様々な意見が出てくるとは思いますが、無理だと一蹴するのではなく、少しでも理想に近づけるような検討ができればと考えています。

3 西尾小学校

No.	質問	回答
1	なぜ配布資料の児童生徒数推計には、特別支援学級の数字が入っていないのか。	文部科学省が定めている基準では、特別支援学級の数は学校の適正な規模等に関する学級数に含まないため、それに準じています。 決して特別支援学級のことを除外して考えているわけではありません。
2	複式学級のメリットとデメリットは何か。	メリットとしては、クラスの人数が少ないので、教員が子ども一人ひとりの状況を把握しやすくなります。 デメリットとしては、1人の教員が2学年分の授業やその準備を行う必要があり、教員への負担が大きくなることがあげられます。子どもたちにとっても、教員が異なる学年の児童に対応した授業も行うことから、授業に制約が生じるなど、きめ細かな授業を受けられない可能性があります。
3	複式学級になった場合、他市の子どもと学力の差が出てしまうのではないのか。また、差が出てしまうと考えた保護者が引っ越ししてしまうと、西尾地区の過疎化が進むのではないのか。	学力に差が出るかどうかについて、明確なことは言えません。 西尾地区の人口減少に対して、心配される気持ちも分かります。他市の事例ですが、魅力ある学校づくりを進めることで、転入者が増え、地域の活性化が図られた例もあります。西尾地区においても、より良い教育環境の整備に尽力したいと考えています。
4	学校規模の適正化等を進めるにあたって、モデルとしている市はあるのか。また統合で成功している地域はあるのか。	近隣市において、現在、学校再編を進めている小牧市や、令和2年に学校統合した瀬戸市の「にじの丘学園」の例などを参考にしています。「にじの丘学園」のように、魅力ある学校を作ったことにより転入者が増え、地域の活性化につながった事例もあります。
5	統合のスケジュールは決まっているのか。以前、藤山台小学校が統合したときは、どのようなスケジュールであったのか。	現状、具体的なスケジュールは決まっていません。今後、具体的な内容が決まっていけば、それに合わせてスケジュールも決まっていくと思います。 なお、藤山台小学校の3校統合は、約5年の期間をかけて、まず藤山台小学校と藤山台東小学校の2校が統合し、次に西藤山台小学校と統合しました。
6	藤山台小学校の統合を進めた際、通学区域など問題になったことはあるか。	当時は統合を前提で地域説明会などを実施していたため、保護者や地域の方からは反対の意見が多くありました。通学区域については、新しい藤山台小学校までの通学距離が遠いという意見から、不二小学校に通学区域を変更した地域があります。
7	現段階で坂下中学校区での具体的な取り組みの構想はあるのか。	具体的な計画はまだ決まっていません。まずは、坂下中学校を含めた既存の4つの学校で適正規模の検討を進めていきたいと考えています。通学距離については、文部科学省が基準としている距離があるため、それも参考にし、通学手段を検討する必要があると認識しています。
8	バスの利用を検討する必要があるとのことだが、バスはどのような運用形態になるのか。	現状、具体的に決まっていません。 他市では、既存のバス路線の利用や、スクールバスの導入の事例などがあります。また、スクールバスについても、市がバスを所有し直営で運用している事例や、委託の事例もあるため、今後検討をしていく必要があります。

4 神屋小学校

No.	質 問	回 答
1	いつ頃から具体的な検討は始まるのか。	現状、具体的な日程は決まっていません。今後の具体的な検討に関しては保護者や地域の方等から代表者を集め、協議会のようなものを立ち上げて具体的な検討を始めていきたいと考えています。
2	今のところ統合には賛成だが、子どもの通学距離が遠くなるのが心配である。バス利用の対象者の範囲など、具体的なことは決まっているのか。	バス利用対象者の範囲は未定です。バスの運用には、路線バスの利用やスクールバスの導入など様々な形態が考えられます。今後、皆様からの意見をお聞きしながら検討していきたいと考えています。
3	統合以外の選択肢はあるのか。	子どもの数が全国的に減少するなか、子どもたちには、市内のどの学校にいても平等な教育を受けてもらいたいと考えています。 適正規模の取組を進めるにあたり、規模の小さい学校同士では、通学区域の変更は学校規模の改善にはならないため、現在の学校数を残す選択肢は難しいと考えます。しかしながら、市だけで決定するのではなく、皆様の意見をお聞きしながら一緒に検討していきたいと考えています。
4	統合する場合、今より1学年の人数が増える。その影響で学童に入れるかが心配。受け入れの人数を増やすなどの対応はしてくれるのか。	子どもの家は、放課後児童の安全な居場所として重要であり、新しい学校で子どもの家が運営されることが、子どもの移動もなく望ましいと考えています。受け入れの状況については、市の西側の学校では3年生でも入れない場合があるなど、市内でも状況が異なっており、今後、学校の適正規模等の検討を進めていく中で、子どもの家の担当部署と連携し検討していきたいと考えています。
5	坂下中学校区は広いため以前の藤山台小の統合とは違うプランが必要と考える。他市の統合例など何か参考しているものがあるのか。	瀬戸市の7つの学校を統合した「にじの丘学園」や、小牧市が現在、篠岡地区で進めている学校統合の事例を参考にしています。
6	統廃合ありきで進んでいると思うが、抽象的であると思う。複数案を提示するなど、具体的に示してほしい。	今回の意見交換会は、神屋小学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めることに対してご理解を得たいと考えています。その後、具体的に検討を進めることとなりましたら、市から皆様にいくつかの案を提示するとともに、皆様からも意見をいただきながら検討を進めていきたいと考えています。
7	統合に向けての内容にしか取れない。なぜ統合とはっきり言えないのか。配付資料を読んでも統合に向けての話にしか取れない。	学校施設は、地域に密着した重要な施設であり、地域のシンボルでもあるため、段階的に議論を進めていくことが必要だと考えています。いくつかの学校を1つの適正規模な学校にしたいという思いはありますが、一方的に決めることはよくないと考えており、皆様と意見交換を行った上で、今後の方針を決めていきたいと考えています。

No.	質 問	回 答
8	<p>まだ統合に関して確定はしていないと思うが、検討を進めていく中で、反対の意見も出ると思う。その際は、改めて統合に対して賛成や反対の検討をしてくれるのか、それとも、最初に統合と決定したらそのまま進めていくのか。検討の結果、最終的に取り組みを中止することはあるのか。</p>	<p>今後は、保護者や地域の方等の代表者などを集めて、協議会のようなものを立ち上げ検討を進めていきたいと考えています。統合ありきではなく、様々な意見をいただきたいと考えています。そのため、今回のアンケート結果だけで、方向性を決定することはありません。</p>
9	<p>代表者を集めて協議会を立ち上げるということは、協議会に参加しないと意見は言えないのか。それともアンケートを取っていただけるのか、代表者を通さないと意見を伝えることはできないのか。</p>	<p>今後のアンケート実施については未定ですが、ご意見につきましては、協議会の代表を通して言っただくほかにも、直接市に連絡していただくこともできます。いただいた意見は、協議会で報告させていただき、必要に応じて検討をいたします。</p>
10	<p>協議会が設立された場合、協議会の内容について議事録をつくる予定はあるのか。藤山台小学校の統合の際には、どのような形で地域に情報が公開されていたのか。</p>	<p>藤山台小学校の統合の際には、市が「かわら版」という紙の報告書を作成し各世帯に配布することで、協議内容を地域に発信していました。</p> <p>協議会については、現時点ではメンバー等も決まっていますが、設置した場合には、協議内容の議事録を作成します。皆様への周知方法としては、保護者にはHome&Schoolで配信し、未就学児の保護者には、園のシステムツールなどを使って配信することを考えています。地域の方には、区長・町内会長に協力いただき、回覧板などで周知していただくことを考えています。</p>
11	<p>学校は地域のシンボルという話があったが、地域には公民館などの公共施設もある。それらの機能を一体化し複合施設として、学校統合を進める考えはあるか。</p> <p>また、統合した後の跡地利用も考えて統合を検討する必要があると思うが、市役所の他の部署と連携して検討することはできるのか。</p>	<p>公共施設は、同時期に建設されたものが多く、同じように老朽化が進んでいます。今後の施設の維持管理費なども踏まえ、学校を公民館などの機能も合わせ持った複合施設とするのか、必要に応じて検討します。</p> <p>また、統合した後の跡地利用についても含め、検討の際には、他部署と調整しながら検討していきたいと考えています。</p>

V 坂下中学校区における基本方針（案）について

「児童生徒数推計」、「アンケート結果」、「地域の特性」に「意見交換会」での意見も踏まえ、坂下中学校区における各学校の適正規模及び適正配置に向けた考え方を示します。

1 児童生徒数推計

- (1) 坂下中学校は、基本的に「やや小規模」で推移すると推定されます。
- (2) 令和 22 年度では、坂下小学校及び神屋小学校は全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であり、西尾小学校においては全学年で複式学級の編成が推定されます。

2 アンケート結果

- (1) 学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級が望ましいと考えられています。
- (2) 保護者は子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒はクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えています。
- (3) 学校の規模や配置を見直す場合、登下校に関することを多くの方が心配しています。

3 地域の特性

- (1) 隣接する中学校区と地形的な隔たりがあります。
- (2) 春日井市に合併前の旧坂下町地区として、地域のつながりがあります。

4 意見交換会

参加者からは、学校を統合する場合のスケジュールや今後の具体的な検討の進め方、バスの導入についての質問が多くありました。また、具体的な統合案を示してほしいなどの意見もありました。



1 坂下中学校は、現時点では他の中学校との統合はしないものの、今後の生徒数の推移を見守ることとします。

2 小学校は、坂下小学校・西尾小学校・神屋小学校の3校の統合に向けて、具体的な検討を進めます。

<検討にあたって>

- 1 登下校について、バスの利用などの通学手段を検討していきます。
- 2 子どもたちにとって、また、地域にとって、魅力ある学校となるように検討していきます。

VI 坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会

1 概要

今後は、坂下中学校区で保護者や地域の代表の方、学校の関係者などで構成する「坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会」を組織し、懇談会での意見交換を通じて、統合の必要性を含め、具体的な検討を行っていきます。

懇談会は公開で行うため、傍聴することができます。また、傍聴者の方も書面により、ご質問やご意見を提出することができます。

2 構成員（案）

- (1) 学校長
- (2) 公立保育園長
- (3) 私立保育園・幼稚園長
- (4) P T A
- (5) 未就学児保護者
- (6) 区長・町内会長等
- (7) 地域コーディネーター
- (8) 学校評議員
- (9) 地区社会福祉協議会

【参考資料】

1 坂下小学校、西尾小学校、神屋小学校の児童数及び学級数の合計

学 年	R 7		R 13	
	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年	90	3	52	2
2 年	94	3	55	2
3 年	101	3	77	3
4 年	125	4	81	3
5 年	121	4	85	3
6 年	103	3	87	3
合 計	634	20	437	16

R 22	
児童数	学級数
46	2
45	2
53	2
54	2
56	2
44	2
298	12

2 坂下中学校区図

